

初心忘るべからず

弱い立場の人に光をあててこそ政治！

令和元年11月3日付けの新聞で秋の叙勲が発表されました。明和町においては、新里在住の井崎巖様が、長年の教育功労が認められ瑞宝双光章を受章されました。



【井崎 巖 様（新里在住）2019.11.3 瑞宝双光章（教育功労）受章】

井崎様は、鹿児島県の有明町に生まれ、地元小中学校を卒業した後は、家業の農家の手伝いをし、18歳で海上自衛隊に入隊、そして25歳から2年間関東短期大学にて学び、東京都の小学校教諭に採用されました。教諭となった後も玉川大学（通信）に進学されるなど、苦学力行されました。教諭として都内で16年間勤務された後、伊豆大島波浮小学校の教頭に就任、そして再び都内に戻り、13年間にわた

り校長職を勤められました。そして、退職後も不登校児童の指導等にご尽力され、その長年の功績が認められ、今回叙勲を受章されたわけです。井崎様の苦勞を重ねながらも、常に向上心を忘れないその生き方は、児童の良き見本となったことでしょう。また奥様が、陰に陽にご主人を支えられたからこそこの今回の受章であることは、言うまでもありません。

井崎様は、45年前に明和町へ引っ越してこられました。退職されてからは、本町の陶芸クラブ、書道クラブの代表なされ、日本舞踊や着付け教室にも参加されており、文化協会の評議員や理事も務められました。

以下は、井崎様からいただいた人生訓についてのお言葉（手紙）です。

「初心忘るべからず」良く聞く言葉です。全ての人が自分の理念を持ち、実践しながら人生を歩んでいます。しかし、時には現状に流され思うようにいかないのもまた、人生です。今の時代国民の代表である政治家を見聞きするにつれ、この人達の姿勢に首をかしげることが多くなりました。初めは国民や町民のためにと高い理念を掲げるものの、自らの保身ではないかと思われる人も沢山います。

振り返って明和町を見れば転居して45年、医療や福祉の面で少しずつ良い方向に向かっていると思います。転居時は以前に住んでいた春日部に何度帰ろうと思ったことか・・・

自分自身が高齢となり、考えなり見る視点が変わってきました。駅には近いものの病院に行くのも買い物をするにも事なしの生活を送ることが難しくなりました。若い時には考えられないことです。世の中は若くて元気な人達で動いているのですが、子供や高齢者のような弱い立場の人に光をあててこそその政治です。

この町に住む人達が“本当に明和町に住んで良かった”と言える町づくりの原点はまさに弱い人達への支援です。現町長が「コンパクトシティ」構想で「オールインワン」の町を目指し理想を求めていることを知り力づけられました。理想は理想としてその裏づけとなる計画や財源は綿密に計算されねば、後世に付けを回すこととなります。町民や町議の一人ひとりが自分の問題としてとらえ協力していけるところ、是正しなくてはいけないところを真剣に考えていかなければいけないと考えています。

「そんなこと無理」と決めつけず、一歩進んで実現するにはどうしたらよいか？皆で考えていきましょう。まずは声を上げるところから、議論のないところに進歩はないと思います。小さな町の大きな挑戦に期待します。 以上

私は井崎様の人生、そして明和町の神髄を見極めた言葉に恐れ入りました。「初心忘るべからず」「弱い立場の人に光をあててこそその政治」という言葉に感服です。今後の町政を間違わぬよう肝に銘じてまいります。大先輩からの金言に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、今回の栄えある瑞宝双光章受章、誠におめでとうございました。今後益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

井崎 巖 様

金言 「初心忘るべからず」「弱い立場の人に光をあててこそその政治」

令和元年12月25日

明和町長 富塚もとすけ